

日本年金機構理事長賞 香川県 重田 雪妃 様 (高校生)

私の母は昨年から年金を受給しています。

「年金」という言葉を聞いたことはありましたが、高齢者の生活を支えるためのものという認識でしたし、その制度について何も知りませんでした。ですので、まさか四十代の母に関係のある制度だとは思いませんでした。

母は私が生まれたころに夜間の見え方に不安を感じたようで、眼科を受診し、網膜色素変性症という難病の診断を受けました。五十歳頃には失明してしまうという診断に、当時の両親はショックを受けたようです。

しかし、この時に適切に診断を受けていたことが、現在の私たちの暮らしを支えています。

といいますのも、約四年前、新型コロナウイルス感染症の大流行により、我が家の暮らしは大きく変わってゆきました。父は何年も単身赴任で結婚式の仕事をしていたのですが、コロナの流行で結婚式が行われなくなり、毎年百万円ずつ収入が減少してゆきました。父は単身赴任先を引き上げ、別の職種に変わりましたが、何百万も激減した収入は今でも元には戻っていません。

その頃、小学校から中学校にあがった私は自分の家庭が経済的に厳しいのだろうと感じていたのですが、周りの友達が塾に通い始めていたのですが、自分も塾に通いたいとは言い出せませんでした。むしろ、高校へ進学することは許されるのだろうか、という不安が勝っていたと思います。

同じ頃、母も何か仕事がないだろうかと求人を探そうとしたそうですが、パソコンの操作ができないことに気づきます。画面上のアイコンの位置がわからない、マウスポインタの位置がわからない、視界から文字が抜けたり欠けたりして読めない、と視覚障害の症状がひどくなっていたのです。

母は、医療費がもったいないからと受診を拒んでいましたが、父から説得を受け、十五年ぶりに眼科を受診しました。

目の障害は、身体障害者二級相当だと判明し、ただでさえ生活が困窮しているのに障害

が進んでしまって、この先どのように暮らしていけばよいのかと両親は打ちひしがれました。

ところが、十五年前の母は会社員で厚生年金をしっかりと払い込んでおり、当時の診断書もきっちり残っていたので、障害年金の受給資格が整っていたのです。お医者さんも障害年金申請用の書類をすぐに作成してくださり、翌月には年金の受給が開始となりました。

年金のお陰で生活に苦しむことが無くなったように見えたので、私は県内でもトップクラスの進学校へ通いたいと両親に話すことにしました。母の目の病気は遺伝子異常が原因らしいので、遺伝子のどの部分に異常があるのか突き止め、iPS細胞を利用して正常網膜の再生ができないか、研究してみたいのです。そのためには大学への進学も希望しています。両親は金策に目途がついたためか、大学までの進学を後押ししてくれることになりました。現在、私は研究者を目指して大学進学を夢見ています。

このように私たちの家庭を支えてくれる年金制度に本当に感謝しています。

両親は、年金の事をただ「取られる」もののようになり、その制度をきちんと知ろうとしたことはなかったそうです。こんなにも身近で私たちの生活を「守ってくれる」制度です。日本に住む私たちはこの素晴らしい制度を自分事と捉え、もっと学び、知ろうとすべきだと思います。

年金は人生の保険です。車だって保険を掛けずに乗らないでしょう。人生を歩み進めるなら年金という保険をしっかりと払いたいですね。

ちなみに母は障害年金を受けているので、保険料の免除が適用できますが、適用を申請していません。理由は、いつの日か治療法が見つかり障害状態でなくなるかもしれないからだそうです。障害が無くなれば障害年金は受給できなくなるので、その時の自分の為に払い続けるのだそうです。そしてその治療法は私に見つけて欲しいそうです。

じゃあ、学費にちょっと年金を借りるかもしれないけれど、待っていてくださいね。